

Mr. サトーのインド通信

モンスーン

ご無沙汰しております。早いものでもう1年の半が過ぎました。現在もインド出張中のわたくしサトーが現地からインド関連のニュースをお送りいたします。

いまインドでは年間で一番気温があがる暑季も終わりに差し掛かり、雨季を迎えようとしています。アラビア海の湿気を含んだ季節風・モンスーンがやってきて大雨をもたらす季節です。

今年のモンスーンは少々異常で現在の季節なら南西部に大量に雨を降らさなければならぬところ、バンガロール～チェンナイにかけての南中～南東部に大雨を降らしています。(弊社オカザキが大雨の為、飛行機3時間遅れのアクシデントに・・・)

そして、昨日まで私がいた南西部のマンガロール周辺ではほぼ雨が降っていません。この先、深刻な水不足が予想されます。

晴れているから丁場にはいいように思いますが、雨季を迎えた時点で南西部の丁場はすべて店じまい。丁場の入り口を障害物や重機で塞ぎ、生産した石を高いところに上げて、オーナーはバカンスに出かけてしまします。今回購入したある丁場のオーナーはロシアでバカンス中。職人と管理者のみ無理やり呼び寄せましたが・・・

主な停止丁場は石種情報一覧に書いていますのでご参照ください。

丁場停止中も今後の供給等について色々駆け引きがありますが、それはまた別の話になりますので置いておきます。



↑大雨(バンガロール、タクシーの中から)



↑丁場への道を塞ぐ重機

前号では選挙の件を書きましたが、ウワサはウワサの域を出なかったようで、まだまだ現在停止中の丁場の採掘許可はおりなさそうです・・・

その原因の一つとなっているのがイリカルレッド丁場群の盗掘、税金逃れ発覚。政府調査がアーバンと同時期に入っていましたが、盗掘や税金逃れが丁場と工場において大規模に発覚。(何も購入していな

い、生産もしてもしないはずなのに、電気料金の請求が膨大にきているのが見つかったらしい) また地方役人との癒着も発覚。各所の丁場オーナーは海外避難中・・・。役人も逃げ惑う始末。一大事件となり、ますます政府筋の石材関係への締め付けが強くなりそうです。

グッドニュースも一つ。バングレーは完全再開され、昔の在庫(中国各社が以前に代金支払い済み) 100~150m<sup>3</sup>程が出荷作業中です。早いものは7月末ごろに中国に入り始め、8月すぎには工場に出だすかと思えます。次に出る新しい原石はかなり値上がりしているのので、製品単価も大幅な値上がりが予想されます。詳しくは弊社営業担当を通じて中国方面の情報をお待ちください。

また選挙の件が悪い方に転んでルピー高による値上げが通知されだしています。先月は運賃高による値上げ、今月は為替・・・と、なんでも値上げに持っていくインド。仕入れをしている日中各社で連合を組んで不買運動でもすれば防げるとは思うのですが、そこは中国様が跳梁跋扈しているインド丁場、必ず出し抜かれてしまいます。

また最近台湾系の原石商社も中国工場に対して原石卸しを初めており、その購入手法がまたあくどい。まず狙った丁場(A丁場)に独占取引を持ちかけ、大量発注を約束。すでに大量取引で言うことをきく別のB丁場オーナーに資金を肩代わりさせ、A丁場に前金を差し入れる。すんなり客が見つければ問題なしですが、見つからなければA丁場からは原石を購入しない。前金を損するのは肩代わりしているB丁場オーナーといった具合。それで実際に廃業した会社は両手の指の数程で被害増加中とか・・・。どれほど日本流で大事に育てていこうとしても、こういうような手法でハンバン押さえられては手の打ちようがありません。

暗い話題ばかり取り上げてしまいましたが、そんな中でも新石種は続々と出てきていますので日々色々思案中です。今回も何点か面白い石見つけましたので、うまくいけば皆様にご紹介できるかも?と思います。

それではお待ちかね、原石丁場を飛び回っている根無し草の私と違い、インド工場周辺に根を張り活躍中の**オカザキ**によるホットな息抜きネタをお届けいたします。

## ~~~~~ジュン・オカザキのインド講座~~~~~

こんにちは、インドで放浪中?(検品中)の**ザキオカ**です。初夏とは思えない暑さが続いておりますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。もうじきに耐え難い真夏がやってきます。

心待ちにしてらっしゃる方もいれば、私のようにスキップして秋になってほしいと願ってらっしゃる方もいるかと思えます。

インド、チェンナイは夏の終わりに差し掛かり、現在気温35℃前後で残暑といったところでしょうか。1ヵ月前に比べれば過ごしやすい時期と言えるかもしれません。職人達もお盆前最後となる発注の生産に取り掛かり、体調に気をつけながら一生懸命やってくれています。

今回も前回に引き続き弊社協力工場の職人達について私なりに書いていこうと思います。

こちらの工場は第一、第二の2工場あり、第一工場では30人弱が働いております。中国同様、切削や機械研磨、梱包等各担当に分かれて作業しています。担当以外にも主に工場内の運搬等をしている補助役もいます。

給与面においては中国工場と違い、歩合制ではなく固定給です。（第二工場は主に外地の職人を雇っている為、中国と同じで歩合制。管理者クラスのみ固定給です）、補助は4000ルピー、各担当は7000ルピー程(日本円で7200、12600円)です。20代30代が多く26歳以上はほぼ既婚者ですが、給与は他業種と比べかなり低い水準です。固定給なので残業は無く、朝9時から昼食休憩を挟み遅くても18時半頃には皆帰っていきます。



↑日本のお菓자에喜ぶ(?)職人達



↑工場が用意した昼食をとる職人達。  
1食70ルピー(120円)。

第一工場の職人はほとんどがチェンナイ近郊の人達ですが、バイクで来ている者やバスで2時間以上かけて来ている者もいます。補助役の人達はネパールとの国境沿いのアッサム州出身で工場敷地内の寮に住んでいます。アッサム州はインドの中でも貧困率が高く、仕事を求めて言葉や文化の違うチェンナイにやって来ます。アッサム州の人達はヒンディーと少しの英語を解しますが、チェンナイはタミル語でヒンディーはほぼ解さない。顔立ちは中国南方～タイ系で、南インドの顔立ちとは明らかに違います。

如何でしょうか。日本の工場で働くのとはかなり状況が違うようです。

以前、職人の代表が運営側と賃上げの交渉している場に居合わせたことがありましたが、普段は仲がよいのですが、大声を張り上げて話し合いをしていました。物価上昇も絡み、賃上げの不満をなんとか抑えつつ運営側も苦労はしつつもよくコントロールしています。



それでは検品中の私、**オカザキ**の勇姿をご覧にいれながらまた来月。 SEE YOU AGAIN!



**石種等の詳細情報は弊社担当営業員まで。 それではまた次回。**